

令和7年度第2回白井市産業振興ネットワーク会議 会議録

- 1 開催日時 令和7年9月11日（木）午後2時～3時45分
- 2 開催場所 白井市役所本庁舎2階 災害対策室2、3
- 3 出席者 小川委員長、板橋委員、清水委員、駒村委員、齊藤委員、押田委員、
染谷委員、宇津野委員、北村委員、今委員、桐山委員、中村委員
- 4 欠席者 阿部副委員長、山崎委員、小水内委員
- 5 事務局 今井市民環境経済部長、岩立産業振興課長、豊田農政係長
商工振興係 保科主査、牧野
㈱NTTデータ経営研究所 石丸氏、瀬田川氏

6 傍聴者 3名

7 議 題

- (1) 白井市第2次産業振興ビジョン（仮称）素案について
- (2) 今後の策定スケジュールについて
- (3) その他（都市計画課から計画策定に向けた情報共有）

8 議事内容

○委員長

それでは、議案について審議したいと思います。

まず議案（1）白井市第2次産業振興ビジョン（仮称）素案について、審議をしたいと思います。

冒頭から農業分野までの部分について、事務局から御説明をお願いしたいと思います。

○事務局

このまま着座にて説明させていただきます。

さて、委員の皆様には書面にて素案修正内容についての確認を依頼させていただきました。

委員の皆様におかれましては、御確認ありがとうございました。

頂戴した、意見は委託業者並びに事務局で一つ一つ検討させていただき、ビジョン修正の参考にさせていただきました。

事前に送付させていただきました資料の「素案」及び「頂いた御指摘とその対応」は資料1、資料2を御覧ください。こちらを基に説明をさせていただきます。

本日の会議は主に修正したところを分野ごとに説明させていただきます。

その後に審議をお願いいたします。

内容の説明に入る前に、資料1の表紙を御覧ください。次期計画の名称について、これまで仮称となっておりましたが、ここに書いてある通り「白井市第2次産業振興ビジョン」とさせて頂くということでよろしいでしょうか。

○委員一同

異議なし。

○事務局

ありがとうございます。それでは、名称は「白井市第2次産業振興ビジョン」とさせていただきます。

まず、冒頭第1章から第3章農業ビジョンまで御説明させていただきます。それでは、2ページの目次を御覧ください。

第1章では、ビジョン策定の目的、位置付け、期間等を、第2章では、全体ビジョンを、第3章以降で分野御とのビジョンをお示しします。そして、最終第6章にて推進に関する記載をしております。目次構成については、前回会議以降に変更はありません。

3ページを御覧ください。第1章こちらはビジョンの策定目的を記載するページとなっております。前回の確認以降の変更点としまして、(1)産業振興ビジョン策定のねらいに企業誘致について記載しておりましたが、こちらについては17ページの分野横断的な連携に移動しました。その部分については、後ほど改めて説明させていただきます。

4ページから7ページについては、現時点で変更はございません。

続きまして8ページの説明をさせていただきます。前回会議で御指摘いただきました西暦、和暦における表記についてですが、文章中は和暦、表や図においては西暦（和暦）表記にて統一させていただきました。こちらの判断については、市の最上位計画である総合計画と合わせる形としましたので、御了承いただくようお願い申し上げます。また、人口減少に転じた要因を分析として追記させていただきました。8ページの説明は以上になります。

つづいて9ページを御覧ください。こちらの財政推移・推計についてはただいま担当課と調整中ではありますが、令和8年度以降の最新データが揃い次第更新し、その際に改めて報告させていただきます。

続いて、14、15ページはいずれも全体ビジョンについての説明です。

文章のみで下部に写真やイラストを付ける構成、または、ビジョンをイラストで強調する構成の2案が上がっています。こちらについては、後ほど御意見頂戴出来たらと思います。

続いて17ページを御覧ください。

③の企業誘致についてですが、冒頭の策定のねらいからこちらへ移動させていただきました。理由としては、既存産業との相乗効果を狙うという部分において、分野横断的な連携の一つの事例になり得ると考えたためです。なお、内容については全ての産業をカバーしたものに文面を変更する予定です。

続きまして、第3章農業ビジョンの説明をさせていただきます。

25 ページを御覧ください。基本方針の部分で御指摘いただいている部分がありますので、説明をさせていただきます。

1 点目ですが、ブランド化による付加価値向上について御指摘を頂きましたが、こちらについては販路拡大・ブランド化による付加価値向上をするためには、それに見合う生産力の向上をまずは優先する必要があると現時点では考えておりますので今回は見送ることとしました。

しかし、市の農産物をブランドとして成長させることは付加価値を向上させる上で大切なことであるという御指摘については、市もその認識を持っておりますので、生産力向上の次のステップとして考えていきたいと思えます。

2 点目、小規模農家の修練した技を新しい世代に伝えて、事業継承を進めていくことが個別のブランドを守ることに繋がるという御意見については、継続する旨がより分かるよう修正をしました。

3 点目、「現物出資型の株式会社方式の農業法人」については御意見いただいた法人を含める形とし、さまざまな形態の法人を検討するという形で修正をしました。

ここまでが冒頭部分から農業分野までの説明です。ビジョンの方向性について、異論がある点や代替策、追加の案があれば御意見をいただきたく思います。

農業分野においての報告は以上です。

○委員長

ありがとうございます。ここまでにについて審議したいのですが、委員の皆様、いかがでしょうか。

最初に意見の口火が切りにくいと思うので、まず委員長から気づいたことを発言させてください。細かい話で恐縮ですが、12ページの市内の用途別平均地価の推移というところにエクセルの図表があります。そこと、9ページの図表を比較したときに明らかにフォントが違うので、見えやすいように措置をしてください。

○事務局

かしこまりました。御指摘の通り対応します。

○委員長

白井市のところは特に強調するようにしていただけると、資料として分かりやすいかなと思います。これはここだけに限らず、全体で使っているエクセル図表関係はお願いします。

○事務局

頂いた御意見のとおり、修正させていただきたいと思えます。ありがとうございます。

○委員長

これは、形式的なところですが。

では、どうぞ。お願いします。

○委員

〇〇です。農業の担い手について、ぜひ若い方々に来ていただくと思います。生産力向上もすごく重要だと思うのですが、今後、新しい農業の形というかブランドをつくっていく、そういったところはすごく重要かなと思うので、自分たちもアイデアを出しながら、その生産力向上で、例えばスマート農業とかをやるのは重要ですけども、どうやってこれをプロモーションしていこうか、どうやって白井をアピールしていこうか、そういうアイデアを一緒に出しましょうという働きかけをすると、一緒になって考えようという人が増えていくのかなと思います。

そこも、次のステップと言っていたいただきましたが、記載いただき計画の中に反映いただければと思います。

以上です。

○委員長

ありがとうございます。

ほかに、委員の皆様いかがでしょうか。

では、お願いします。

○委員

〇〇と申します。

21ページの果実の産出額というのがありまして、白井市は千葉県内の自治体で比較的トップとあるのですが、先日テレビで梨のことをやっていたときに、松戸市が1位という放送があったのです。それは私が見ていなくて、友達が見て言ったのです。それで、白井市でしようと思い、譲っても市川市ではないかと言ったら、松戸市とやっていたというのです。しかし、この21ページを見ると断トツで白井ですよ。だから、白井の梨というのがなかなか響いていないのかなと思いました。この果実の産出というのは梨のことですよ。PRやアピールが不足していると思いました。いかがでしょうか。

○委員長

事務局いかがでしょうか。

○事務局

ありがとうございます。

今回のデータだと、一応果実ということになっておりまして、例えば白井市の場合、もちろん梨が一番大きな割合なのは、そのとおりだと考えますが、他に例えばキウイフルーツやブドウ等が想定できると考えております。梨の順位については、現時点で1位であるということに、間違いはないと事務局側としても捉えているようなところでございます。

アピールについては、産業振興課の農政係で対応しているところでございますので、引き続き、皆さんに気づいていただけるようにアピールの方法を工夫し頑張っていきたいと考えております。

○委員長

よろしいでしょうか、〇〇さん。

では、それに関連させてですが、委員長からよろしいですか。21ページの果実の産出額で県内市町村挙げてランキングつけている箇所があります。これについて、他自治体を刺激しないように、下位は外しませんか。あえてここを強調しなくてもいいのではないかと思います。詳細までランキングは判りますが、千葉市以降は少ないのだから、ここを取り上げる必要はあるかなと私は思います。

○事務局

そちらについても、そのとおりかと思いますので、対応させていただきたいと思います。

○委員長

ここで重要なのは、白井市が果実、特に梨が県内有数を走っているということがアピールできればいいことだと思います。

ほかに、委員の皆様いかがでしょうか。では、どうぞ。

○委員

〇〇でございます。下のほうの単位が千万円で、上が百万円で、農業産出額というのが29億1,000万でいいのですか。

○委員長

これは34億でしょう。

○委員

果実だけで34億1,000万になっているのに、上は農業産出額合計で29億1,000万にしかなくなっておりません。291億なら、何となく意味が分かるのですけれども、桁が違うのではないかなと思います。

○委員長

ちょっとおかしいですよ。同じ農林水産省農林業センサスを使っているのですよね。

○委員

そうですね。

○委員長

では、事務局お願いします。

○事務局

今、委員に御指摘いただきましたように、農林業センサスから引っ張ってきたデータになるのですが、単位のところに関しましては、再度確認しました上で、正確なものにさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○委員長

では、ほかに委員の皆様いかがでしょうか。農業関係者の方は、特に自分たちは言いたいというところがありましたら、遠慮なくお願いいたします。

特にないようでしたら、次の内容に移ります。では、事務局お願いします。

○事務局

14ページ、15ページの全体ビジョンの見せ方の部分というのは、特に御意見なければ、事務局で決めさせていただくということによろしいでしょうか。

○委員長

14ページ、15ページの第2章、全体ビジョンについてですが、今、事務局から提案がありましたけれども、追加修正案が出ているのですけれども、これについて事務局に御検討をお願いするという形でよろしいですか。

○事務局

14ページの案は、これに写真やイラストをつけ加えるような形になるかなと考えておきまして、15ページの案は、このようにイラストで分かりやすく、旗印みたいなイメージで現状はつくってあります。あくまでデザインだけの部分の話です。

○委員長

いかがでしょうか。〇〇委員、いかがですか。

○委員

〇〇です。この街のグランドデザインに関することなのですが、農業の梨農園の耕地面積と、工業エリアの事業所エリアの面積と、住宅とというふうに分けて、その配分というのは、目標のようなものは、こうするといいよ、バランスが取れていいよねというようなものはあるのでしょうか。

もう一つは、今、工業団地の中を通り抜けてきたのですが、途中で市街化調整区域がどんどんフラットになってくる。そして、これから何か始まるのかなと考えます。そういったものが、どう変わっていくのだろうかという問題意識を持っています。

工業団地の中で物流倉庫というのは、固定資産税が入るから、物流倉庫歓迎ですよということで、今後物流倉庫はどこまで増えていくのかなと思います。そういったものの配分について、白井市としてはどのようにお考えですか。全部が物流倉庫になっても、税収が上がればいいという考えなのか、物流倉庫というのは、このぐらいのパーセンテージで抑えないとバランスが取れないというような、都市計画全体のグランドデザインを描いて、その中で我々も検討していくと、もう少しアイデアも出てくるのではないかという気がします。グランドデザインというものに非常に興味を持っております。以上です。

○委員長

今の〇〇委員からの御発言について、事務局のほうで対応できるものがあったら、お答えください。

○事務局

ありがとうございます。

今、〇〇委員から頂いた問題につきましては、市の全体のビジョンという形になります。

これは今、市全体でつくっている総合計画や都市マスタープラン等での話になりますので、ここで物流をつくるのか、誘致をどのようにしていくのかというのは、こちらでお答えすることが難しいので、別の機会の会議の中でお話しさせていただければと思います。申し訳ございませんが、御了承いただければと思います。よろしくお願いいたします。

○委員

あえて申し上げたのは、梨が生産量一番となっていますが、これをどう考えていくのか。やはり全体があって、その中で考えていくことではないかと思います。グランドデザインがここに載っていて、このグランドデザインを見ながら、みんなで知恵を出し合おうというようなことだと、話がもう少し具体的になるのではないかと考えます。

○委員長

では、〇〇委員。

○委員

〇〇委員のおっしゃることで私はそうだなと思うのは、例えば産業振興課の縦系列、後から都市づくり、そこを全部一緒にしてグランドデザインというか、この白井市をどうやっていくかということですよ。先ほど事務局のほうで、違う部分でお答えみたいなきっかけがあったのですが、実はそんなことではなくて、全部を一緒にした議論をしていかないと、本当に国の政治もそうかなと思うのですけれども、縦でみんなが一生懸命やっても、何も進みませんよね。そうしたら、白井は白井としてどうやっていくのかというのをひとつと一まとめにして、みんなでけんけんごうごうやって、それを一つにまとめていったほうが、きっといい市ができるのではないかというふうに思います。だから、ここで私たちが一生懸命やっても、それが縦だけでいってはいは絡まっていかないかなと思います。

○委員長

ありがとうございます。

それについては、私も県内のほかの自治体で、こういう審議会に入らせていただいているのですけれど、大体、総合計画審議会という大本の審議会で話し合うのです。それで、市の方針というのを決めないと、下の計画まで下りてこないのです。だから、それぞれ役割分担がありますので、できれば〇〇委員のような勇ましい意見を持っている方に総合計画審議会に入っていただけるとありがたいと個人的には思います。

農業に関する話なのですが、昨年度に、会議の場ではありませんが、会議の前後に談笑する機会があって、実は葉物野菜のほうが出荷額が多いんだよというような話をよく聞かされたことがあるのです。ブランドに特化するのが街のシンボルに合うというのは分かるのですが、問題は農業全体の底上げです。まず稼げる農業をやらなければいけません。農業従事者の方の後継者問題とか、設備投資の更新が遅れてしまうから、そこは念頭に入れておいてほしいなと思います。

あと、ビジョンの見せ方ですが、事務局にお任せするという形で了承を取りつけたとい

う理解でよろしいでしょうか。できればフロントページに何かイラストをA Iに作ってもらったほうがいいのではないかと個人的には思います。

○事務局

見せ方の部分に関しまして、今後ある程度煮詰めましたら、デザインを追加させていただきまして、もう少し華やかな形に仕上げたいと思います。

○委員長

分かりました。ありがとうございます。

では、次に行きましようか。それでは、工業分野について、事務局から説明をお願いしたいと存じます。

○事務局

続きまして、第4章工業ビジョンの説明をさせていただきます。

工業については、課題まで今回、大きな修正がございませんので32ページを御覧ください。ビジョンと基本方針について御指摘を頂戴しておりますので、説明させていただきます。

まず、インフラ整備のみではなく白井工業団地だから出せる魅力を創出し、新しい技術者が入りたいと思うような価値創造を図っていくことが重要という御指摘を頂きました。こちらについては、市としても重要という認識を持っており、基本方針の2や4に今回御指摘いただいた部分を包含していると考えた上で、工業団地協議会さんとの対話等やり取りを重ね価値創造に向け取り組みたいと思います。指摘いただきありがとうございます。

また、どの事業にいくら掛けられるか分かるように書いてほしいとの御指摘を頂戴しております。本ビジョンは産業政策の方向性を示すことを目的としており、具体的にどの事業にどの程度の予算が付くかを掲載するものではありません。

予算は年度ごとに議会の議決を経て決定するものであるため、ビジョン内に金額を記載することはできませんが、読む方に少しでも長期的な市の財政状況をイメージ頂くために財政推計を9ページで載せることを予定しております。

財政推計はあくまでも将来の財政状況を予測した推計であり、制度や環境によって変化する仮の数字となっております。

なお、最新の財政推計は、担当課にて確定次第掲載をさせて頂く予定であり、現時点ではまだお示しすることが出来ないものとなっております。

工業分野においての報告は以上です。

○委員長

ありがとうございます。では、工業分野について審議していきたいと思います。

まず最初に、場が温まる前に私が発言させていただきますけれども、金のかかる話も確かにあると思うのです。インフラ整備の問題などです。また、実態に即していない規制の

問題等の費用のかからない方策というのを検討されているかと思います。その規制の緩和というのは、事業者のほうから出てきたときには、その都度検討してもし緩和できるのであれば対応していくというのが柔軟ではないかと思います。

特に、私ごとで恐縮ですが、この8月に線状降水帯が発生しゲリラ豪雨が多い現状があります。家族が九州で運送屋をやっているのですが、裏手にある川が氾濫しまして、結構トラックに水がかぶって、もうちょっとで事務所まで床上浸水してくるというような状況まで追い込まれたことがあるのです。そういう問題は、白井市の工業団地というのは大丈夫なのかと思います。立地的には大丈夫そうに考えますが何か問題ないのかと老婆心ながら思います。では、委員長発言はこれぐらいにさせていただいて、委員の皆様、いかがでしょうか。工業団地について、どうでしょう。

では、どうぞ。〇〇委員、お願いします。

〇委員

〇〇です。内容ではなくて、まず写真ですが、これはいつの写真をお使いなのですか。文中に物流がどうか書いてありますが、この写真の一番手前の真ん中も、今は物流倉庫がどんと建っていて、この中でも3か所がもう物流に変わっているのです。手前の山林なんていうのは、もう無くなっていますし、過去の写真を大事に使い回すのかなと思います。

今は、航空写真を市でも撮っているとは思いますが、そういったものの最新版を使っていくような仕組みですね構築していただきたいです。

先ほど農業のでもありましたけれど、あの梨の写真、あれもいろいろなところで見ます。それぞれもう少し考えた写真、さっきビジョンで写真だとか、華やかにと言っていましたけれども、使い古した写真を入れても華やかにはならないので、そこは少し考えていただきたいと思います。

それと、26ページの写真の下、2行目、一番最後のところですが、この「生造品出荷額」、これ、「生造」の「生」は違っていますよね。次のページの2行目にも製造品出荷額とあるのですが、製品のほうの「製」ですよね。ということで、内容よりもその点が気になります。

〇委員長

御指摘のとおりです。事務局、よろしいですか、今の〇〇委員の発言について。

〇事務局

ありがとうございます。誤字につきましては、もちろん修正させていただきたいというところと、実は写真につきましては、この工業の写真につきましては、工業団地協議会さんから提供を受けたものではあるのですが、御指摘いただいたとおりで、かなり前とお話を頂いていたところで、こちらを差し込ませていただいたというような形にはなるのですが、もう少し写真の見せ方の部分、考えていきたいなと思います。ありがとうございます。

〇委員長

では、〇〇委員、お願いします。

○委員

〇〇でございますけれども、30ページのところの（２）の課題なのですけれども、その前のベースになっているアンケート、これがベースになって課題になっているのですが、この間も申し上げたのですけれども、800社に出して117社の回収で、それも本社に出しているということだったので、この辺の課題は、工業団地から市への要望書を出しているわけです。今年のは、工業団地も何かできることがあれば頑張りますというようなのを最後に書いたのです。そのことによって、市長さんもすごく前向きにその点を評価していただけたということなので、その辺の課題を加えていただくのか、変更していただくのかということが必要だろうと思います。

確かに課題の１番目に人手不足の深刻化というのは、それは人手不足なのですけれども、どうして採用できないのかというベースは、やはり工業団地から出している要望の最大のインフラの整備なのです。いわゆる通勤アクセスがないとか、それから上水道が入っていないとか、それから大型規制があるのは、求人に関係はないかもしれませんが、いずれにしても、そう変えていただいたほうがよろしいかと思います。工業団地としての課題ははっきりしているわけです。ですから、その辺は前の委員会のときでも申し上げたことなのですけれども、御検討いただけたらいいなと思っています。

○委員長

ありがとうございます。続いて、〇〇委員、発言ありますか。

では、今の〇〇委員の発言について、事務局、対応をお願いします。

○事務局

〇〇委員、ありがとうございます。

課題のところにつきましては、要望書を先月受け取りましたが、こちらにつきましては、ここの課題から次のビジョンの基本方針をつくっているという関係もございますので、少し整理させていただきたいと考えております。

ただ、大幅に変更できるかというところは、ビジョンの基本方針と照らし合わせながらという形になると思いますので、その辺は御了承いただければと思います。以上です。

○委員長

ありがとうございます。ほかに委員の皆様、いかがですか。〇〇委員、お願いします。

○委員

最近、工業団地の地価もどんどん上がっています。そして入ってくる会社は、物流会社と産業廃棄物関係、この２者が断トツではないかと思っています。そうした傾向がこれからどんどん広がっていくと、工業団地と言えなくなってしまうのではないかと。つまり、都市計画全体として、そういった物流倉庫と、あるいは産業廃棄物の会社さんとか、そういったエリアをこれぐらいのパーセンテージで抑えておこうよというような都市計画に基づい

て、ここでもう満杯ですよという選択肢もあるのではないのかなと考えます。やはり都市計画でランドデザインができていないと、それも難しいと思うのですが、都市計画がこうなっているので、もう物流はここで、データセンターもこれぐらいの量で抑えておかないと、データセンターだけになってしまいますよね。そうすると、いろいろな問題が出てきますよね、野放しにしていると。確かに税収は上がるから収入があるので、市としては、市民の皆さんのサービスがよくなったりして、人がどんどん入ってくるということはあるかもしれないけれども、まちとして長い目で見たときには、いろいろ問題が出てくるのではないですか。ぜひ、そういった配分について御検討いただけないかというふうに思っています。

○委員長

とても興味深い話ですね。では、事務局、現時点での回答をお願いします。

○事務局

〇〇委員、ありがとうございました。

今、どのぐらいの産業がどのぐらいの配分でというところで、例えば物流が何パーセントといったように、市全体でどのような産業を配分するのかという形でランドデザインを考えたほうがよろしいのではないかという御意見だったと思いますが、市長は、よりよい市政をするに当たり、全部が全部データセンターでいいと思っているわけではない、物流でいいと思っているわけではないというのはしっかりと公言しておりますので、そういった地域地域に合わせて、何がいいのかというのをしっかりと市全体で、関係課等も踏まえながら検討して配分していくという形に、今後はなっていくのではないかと思います。しかしながら、現在、物流が何パーセント、データセンターが何パーセント、例えば農業用の企業誘致が何パーセントというところでの数字を示すことはできないことについて、御了解いただければと思います。以上です。

○委員長

ありがとうございます。

では、〇〇委員。

○委員

パーセンテージと申し上げましたが、この市全体の中のエリアをどうするかというようにお考えいただいたほうがいいのかと思います。

○委員長

ゾーニングの話ですね。

○委員

専門用語ならゾーニングというのでしょうか。ぜひそういった俯瞰的に見て、このまちをどうするのというところを私たちにも分かりやすいようなビジョンを示していただければ、市民の皆さんと対話をする場合、こういった絵があると話がしやすいです。ただ言

っても、なかなか理解してもらえないし、用地買収についても協力してもらえないです。将来こうなるので、どうですかという提案できるような絵が欲しいです。以上です。

○事務局

ありがとうございます。

市全体のグランドデザイン的なものが、未来創造戦略室で企業誘致をするための候補地をある程度定めているところです。そこに何が来るかというのは、これからお話をしながら決めていく形になると思うのですが、このエリアがどういうものかということについて、そういった絵があると、もちろん企業誘致を進めやすい、皆様、地元の方々に御理解いただきたいというところはおっしゃるとおりだと思いますので、都市計画の都市マスタープランの中でどれだけ反映させられるのかといったことになってくるかと思います。以上です。

○委員長

〇〇委員、お願いします。

○委員

〇〇と申します。農家の方が、もう田んぼをつくれなから辞めるとなったときに、土地売買はよく分からないのですが、個人で売ってしまってヤードになってしまうとか、前、〇〇さんがおっしゃったかと思いますが、谷田だか神々廻で、パッチワークみたいにヤードというか、産業廃棄物の山になってしまうことがあります。

私が一番見て思うのは、白井運動公園に入る道路の両側がいつの間にか産業廃棄物の何かになってしまい残念です。産業廃棄物もちろん大事ですし、そういう企業もなくては困りますが、どこがいいのかなというのは、先ほど言われたグランドデザインとしてやって、梨の農家も、梨が多いといえども、もう後を継ぐ人がいないから梨を切るという人を何軒も知っていて、その人が梨を切ったらどうするのというときに、もう少しグランドデザインとして、この区域ごとにこういう方向の都市計画でやっていくというのを分かっていたら、パッチワークの開発みたいにならないのではないかと危惧をするのですが。

○委員長

貴重な意見ありがとうございます。

要望として、上位の審議会に入っていただけるとうれしいなというふうに思うのですが意見は大事なので承ります。ほかに委員の皆様、いかがでしょうか。〇〇委員、お願いします。

○委員

〇〇です。26ページ、27ページに、工業団地を中心として工業関連の事業所数と従業員数というのが両方載っていますよね。これは、本当にこの数なのですか。少なくとも、大分前に工業団地の従業員のある程度の数を把握したときには、7,000名ぐらいだったと思います。それが、たしかその当時200社ぐらいの集計だったような記憶なのですがあまり

に乖離があります。

ここの表現でいくと、工業団地を中心とする白井市全体の工業の事業所数と従業員数となっているので、これは前にも申し上げたのですけれども、総務省の経済センサスのデータではなくて、白井市の把握されているデータのほうがずっと正確なのではないかと思えますし、製造品の出荷額が1,782億というのも本当なのか感じます。各社の売上高は工業団地としては把握していない数字です。横の情報連絡を取れば、白井市で十分把握できる数字だと思っています。また、白井市の商業の平均従業員数が17名もいるのだと思って、びっくりした感じもあるので、その辺を前々回にも、センサスのデータというのは本当なのですかみたいな話をしたことがあるのですけれども、いかがなのですか。

○委員長

ありがとうございます。これ、私のほうから〇〇委員に確認したいのですけれども、水増しだとかいうふうに感じられているのですか。

○委員

いや、少な過ぎる。

○委員長

少な過ぎる。なるほど。

○委員

私自身、いつも7,000名と言っているので、まずいなと思います。内心、じくじたる思いでこれを見ています。この数字が正しいとすれば、うそを言っていることになります。

○委員長

総務省の調査だから、強制力はないけれど、大抵協力してくださっているでしょうといふので、信認があつて確かなデータとして、私ら学者界限は総務省のデータを使うのですけれど。それについて、事務局のほう、いかがでしょうか。

○事務局

ありがとうございます。まずセンサス自体は、市が調査したものをセンサスとしてまとめてというのがまず1点です。

あと、工業だったり、商業だったりの分類の部分の話で、もしかしたら工業団地さんの捉えられているような会社の人数というのが、商業に振られてしまっていたり等、そのあたりの差が出てしまっているのかなというふうに捉えているところでございます。

○委員長

分かりました。〇〇委員、お願いします。

○委員

誤差とか把握の仕方が若干違うとかそんな差ではないように思います。工業団地そのものは、工業専用地域ですから、商業は基本的にはないわけです。サービス業というのは、どちらに入るのかよく分かりませんが、サービス業をやっている会社は何

社かあると思うのですが、毎回不思議に思っています。例えば工業団地で税金を納めていらっしゃる、事業税とか、そういう事業所数等、やはり税金が一番なのですかね。固定資産税のからすれば、事業所数は大体分かるのですよね。そういうデータとチェックしたほうがいいのではないですか。

○委員長

法人税が申告されていますから、その申告データからも見ることは一応できるのですが、目的外使用になってしまうから、それが毎回引かかるのです。

○委員

大幅に違いそうなのです。ほかの審議会でも、このデータを使っていらっしゃるのですよね。

○委員長

税のデータは究極の個人情報に匹敵するから、なかなか使うのはシビアになるのです。

○委員

でも、事業所数把握するぐらいだったら、納税額把握しようというわけではないから。

○委員長

例えば法人事業概況書ってあるじゃないですか。あれで、こういうデータは拾えると思うのです。従業員数も書いているし、売上げもあるし。

○委員

そうですね。総務省でやっていらっしゃる。

○委員長

税務関係です。できるのだけれども、だけど、それはちょっと目的いかがでしょうか。

○委員

別に全体のストーリーに影響するかどうか分からないですからね。

○委員長

そうですね。

○事務局

今回、出典のところに書いてあるとおり経済センサスからというところになってくるのですが、今後、5年、10年で、経年で考えていく中で、センサスというところでは独自データになってくると、どの範囲でというリスクがあります。今後という意味では、このデータで取ってこないといけないのかなというふうに考えているところです。

○委員長

それぐらいで御勘弁していただければと思います。

ほかに委員の皆様、御意見ございませんでしょうか。出尽くした感じですか。

では、工業分野については、時間の都合もありますので、ここで閉じさせていただきます。

では、次に進んでいきましょうか。続いて、商業分野に進んでいきたいと思います。最終ページの情報発信体制まで、事務局に説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○事務局

続きまして、第5章商業ビジョンから最終ページである情報発信体制まで説明をさせていただきます。

37 ページを御覧ください。(2) 課題の「事業承継の担い手不足」について原因は後継者がいないのではなくて、「事業そのものに魅力や将来性が無いから」ではないかという御指摘を頂きました。

御指摘いただいたとおりであるかなとも考えますが、解決の見通しがつかない課題であるため、後継者確保に重きを置くことについて変更はしないこととさせていただきます。一方で、創業塾の利用者が一定数存在していることから、経営者になる意欲があると考えます。このことから既存産業の継ぎ手がないことに着目した施策であることを追記しました。

つづいて、39 ページを御覧ください。基本方針の内容について御指摘を頂いておりますので説明をさせていただきます。データセンター増加による関係人口増加で成功している隣の印西市と広域連携すべきであり、印西市でうまくいった施策を取り入れて商業活性化を図るという提案をいただきました。

こちらについては、事業レベルでは御指摘の通り他自治体の成功例を参考にすることも重要だと考えます。しかし、本ビジョンにここまで具体的に記載する必要はないと考えたため今回は載せない形にさせていただきます。

次に市が行う最も重要で最優先の施策は「交通アクセスの充実」と「景観整備」が全ての市の施策のベースであり加えるべきという御指摘をいただきました。

こちらについては、別途策定している都市マスタープランという計画がありそちらで対応していると考えております。

ここまでの商業分野までの説明です。第6章 産業振興ビジョンの推進にあたっての部分においては大きな修正がございませんので説明については省略します。

ここまでの商業分野から最終章までの説明です。ビジョンの方向性について、異論がある点や代替策、追加の案があれば御意見をいただきたく思います。事務局からの説明は以上です。

○委員長 ありがとうございます。

では、商業分野から最終ページの情報発信体制について、委員の皆様、御審議をよろしくお願いします。御意見のある方いらっしゃれば、御発言ください。では、どうぞ。○○委員、お願いします。

○委員

〇〇でございます。確認なのですが、30ページのアンケート、800件で117件の集計、4件をインタビュー実施というのと、37ページの商業のアンケート800件、回答を得られた117件、4件を対象にインタビューというのは、たまたま一緒なのか、同じアンケートで工業、商業分かれてやっている、工業、商業を併せてアンケート800件取ったのか、これを確認させていただければと思います。

○委員長

では、事務局、お願いします。

○事務局

ありがとうございます。今お話しいただきましたとおり、工業事業者向けと商業事業者向けのアンケートは、同一のものと考えていただければと思います。以上です。

○委員長

〇〇委員、戻します。お願いします。

○委員

そうすると、もう少し記載の方法を分かりやすくしたほうがいいかなというところと、インタビュー4件というのが、工業だけで4件、商業だけで4件と認識していたので、若干少ないかなと印象としては感じました。

併せて、商業も工業も人手不足というのがテーマになるのかなと思っています。対応策とすると、地元の方の就業支援、地元の方は地元に入ってもらおうというところと、最近ですと、市内に海外の方が大分働かれています、住まわれているのが印象としてございますので、そういった海外の方が安心して暮らせるまちづくり、その結果、従業員として確保できるということも必要なのかなと感じました。私のほうは以上です。

○委員長

ありがとうございます。では、その点について、事務局、いかがでしょうか。

○事務局

〇〇委員、ありがとうございます。まず、補足でアンケートに関しての件数のところなのですが、工業事業者と商業事業者、こちらは800件、同じアンケートですというのは、そのとおりなのですが、アンケート後のインタビュー調査につきましては、工業と商業それぞれという形でインタビューをやらせていただいております、それだと、なかなか分かりづらい部分もあるのかなと思いますので、この部分の書きぶりに関しては、検討したいなというところと、37ページの(1)の課題整理の方法の下の部分に、同一のものという形で一応書かせてはいただいているのですが、この部分を少し強調するような方向で検討していきたいと考えております。

海外労働者の部分は、今まで検討として挙がってこなかった部分でありますので、御意見としては、その部分はあるかなと思います。ただ、このタイミングで修正として何とも言えない部分ではあるのですが、検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

ます。

○委員長

では、ほかにいかがでしょうか、委員の皆様。〇〇委員お願いします。

○委員

事業継承の担い手不足ということで、産業が衰退しているということは、世間一般でも言われています。そうかなとも思いますけれど、昭和のジャパンナンバーワンと言われていた時代から見ると、その間に行われた施策によって、今日になっていると考えます。一つには、労働時間をとにかく短くしろということで、時短がどんどん進められている。そして、円が強すぎるということで、円安基調になった。円がどんどん安くなって、原材料がどんどん上がる。上がって、その分をヘッジしようと思っても、なかなか中小はできない。そこに、賃金を上げなさいということで、今また賃金のアップを要請されていますけれども、こういったことを続けていけば、当然中小企業は経営が苦しくなる。材料高、維持費が高騰という形で、そうすると、M&Aでもって会社を生み出せないということで、大手さんに収斂されていくと考えます。大手さんは、中小企業の持っている技術でもって、海外で生産をする、海外に生産拠点を移してしまうと考えます。そういうような現象がどんどん加速しています。今、アメリカは製造業を取り戻そうとして必死になっていますけれども、やがて日本もそういう時代になるのではないのかなと思います。今のアメリカは日本の10年後といわれていましたけれども、そういう現象になりつつあるのではないかなと。

やはり中小企業が成り立つような施策を国は、市にこういう話をしても仕方ないけれど、そういう施策をぜひ市も意識、自覚して取り組んでもらえたらなと思います。中小企業が継続できるような施策というものについて、もっと心を砕いてほしいと思います。特に円安で、本当に苦勞しています。いつも、つくってもつくっても利益が上がらない。利益分は全部原材料に食われてしまうというような状況になっています。円を強くして、国の通貨が弱くなるほど喜んでいいる政治家がどこにいるのか、私は声を大にして言いたいのですが、ここに言っても始まらない。すみません。感想です。以上です。

○委員長

同感でございます。経済の担い手は、特に雇用面で言うと、中小企業が果たしている役割は大きいではないですか。国全体で見ると9割ぐらい中小企業で働いている方がいるでしょう。技術も中小企業で先鋭的な技術を開発しても、それを素知らぬ顔で、大手が札束で叩くようなまねをしているじゃないですか。行政ができることはやはり物をつくって、それが売れないと、中小企業さんは存続できないから、そうすると、買い手の方々に白井の中小企業がつくったものの魅力を伝えるしかないのですよね。一方、なかなか難しい側面はあります。

○委員

高くなると買ってもらえない。私たちがダイソーさんで買いますから。それは責められません。ですが、せめて何とかしてほしいというのが正直なところです。本当に、個人の名前を言って恐縮ですけども、竹中平蔵さんが中小企業は要らないと、退場しろと話していました。以上です。

○委員長

貴重な御意見だと思って承らせていただきます。

では、ほかに委員の皆様いかがでしょうか。委員お願いします。

○委員

〇〇です。事業継承の担い手不足のところで、創業塾というのが一つあるみたいなのですが、この創業塾、私が認識では、年に1回なのです。創業するためには、いろいろ準備が必要ですし、必ず成功するわけではないじゃないですか。ここで言うべきかどうか分からないですけども、年に1回では、ちょっと少ないのではないかなという気がしていて、もっと頻繁にそういう機会があるといいのではないかなという気がするのですけれども、いかがでしょうか。

○委員長

どうぞ。

○委員

〇〇といいます。さっきの創業塾なのですけれども、年に1回なのですけれども、もう今年で3、4年やっているのです。でも、女性で起業した人たちが何人か増えています。それはすごいことだと思っています。その中で、商工会の女性部に入っていた人が4人、皆さんそれぞれ独立して企業をやっていますので、これはすごいことだと思っています。これからも続けていけたらいいと思っていますので、よろしくお願いします。

○委員長

ありがとうございます。今の創業塾関係の意見について、事務局にお答えしてもらいましょう。どうぞ、お願いします。

○事務局

産業振興課、〇〇です。

創業塾につきましては、国のほうに創業の計画というのを出して認定されている事業、特定創業支援等事業というものになっておりまして、商工会さんが主催で創業塾はやっております。令和元年度から始めているのですが、今までに受講者さんが、およそ100名、今年度も今、募集しているのですけれども、この市でやっている創業塾のほかに、千葉県の信用保証協会がやっている創業支援セミナーというのが年に2回あります。これは県域でどなたでも申し込める形になっていますので、創業を希望される方が、そのような講座、セミナーに出る機会というのは、一応年に3回、市内に住んでいる方だとある状態です。

近隣では、創業塾を年に何回かやっている自治体もあるとは聞いてはいるのですが、今、

現状としては、白井は年に1回という形で、商工会さんとその計画上も年に1回という形でやっておりますので、今後、支援をするいろいろな事業者、どちらかといえば商業の方になるかと思うのですけれども、支援をするという部分では、商工会さんとお話をし、意見を調整して、回数が増やせるかどうか等を検討させていただきたいと思いますので、その辺のことを御了承願えたらと思います。以上です。

○委員長

ありがとうございます。創業塾にすごく興味を持ちました。年1回ものの、どのぐらいの内容のコンテンツを提供するかにかかっているのです。単に創業に関する事務手続を教えるのだったら意味ない。だって、開業届出して、法人手続やってとか。肝腎なのは、時代の内容に即したノウハウの提供ができるかというようなことにかかっているんじゃない。そこまで踏み込んだ創業塾というのがあるのかなと、個人的には思うのです。同じことをやっていたら誰にも相手にされないから、安いほうに行かれるだけです。それはもう世の常だから。やはり創業塾の教育コンテンツの内容にかかっているのだと思います。

○委員

お金はテキスト代だけですよね。

○事務局

そうですね。テキスト代3,000円程度で、5週連続という形で毎週土曜日です。

○委員長

何かと思いますけれど、事務局から御回答を頂いたので、その旨はお伝えします。

ほかに委員の皆様、何か御意見ございませんでしょうか。

なければ、商業分野から情報発信体制の部分については、時間の都合上、ここで閉めさせていただきます。

あと、情報発信についてなのけれども、もちろんそれは行政のほう把握していることだと思うのですが、国や県などの関係機関が行う補助金や給付金などの取組があったら、その利用者の方々に周知されるというのはやられていると思うのだけれども、マルチメディアで、紙媒体一つ、ポスター作って終わりではなくて、ツイッターとか、Xですかね。いろいろな形で情報発信はしたほうがいいと思います。それだけ申し添えて閉めさせていただきます。

では、議題（1）白井市第2次産業振興ビジョン素案について、これで取りまとめようと思うのですが、いいですか。

では、議題（2）今後のスケジュールに進んでいきます。では、事務局、説明をお願いします。

○事務局

それでは、資料3の白井市第2次産業振興ビジョン改定スケジュールを御覧ください。前回会議からビジョンの修正対応を行ったため、予定より会議開催が後ろとなったこ

とから、今後の予定を一部修正させていただきました。今後は、本日の会議を踏まえ、調整させていただいた上で、庁内の戦略会議、その後、パブリックコメントと、その後の対応という形で進めさせていただきます。次回会議の際には、パブリックコメントと、その対応等を含め、最終的な報告という形で次回会議に臨ませていただければと思います。よろしく願いいたします。

事務局からは以上です。

○委員長

ありがとうございます。

今、今後のスケジュールについて、事務局から説明がございましたが、何か委員の皆様、御意見ございますでしょうか。

特にないようでしたら、今後の策定スケジュールについては、これで終了させていただきますと思います。

続いて議題（３）その他について事務局からいかがでしょうか。

○事務局

その他として都市計画課から（仮称）景観とみどりの基本計画の策定に向けた取り組みについて報告させていただきます。

（中略 都市計画課から計画策定に向けた情報共有がありました。）

○委員長

その他にございませんでしょうか。

無いようでしたら、以上で審議を終了します。ありがとうございました。

○事務局

委員長、お疲れさまでした。また、皆様、本日は御審議いただきありがとうございました。

以上をもちまして令和７年度第２回白井市産業振興ネットワーク会議を閉会させていただきます。お気をつけてお帰りいただくようお願いいたします。本日はありがとうございました。